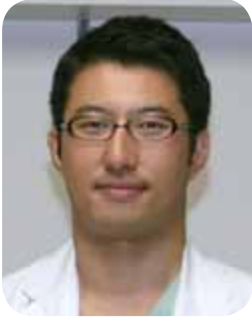


はじめまして



心臓血管外科  
田中 啓介

## 心臓血管外科手術を再開します。

はじめまして。4月より再開する心臓血管外科に、名古屋大学より赴任することになりました、田中啓介と申します。この伝統ある名古屋医療センターの一員として医療に従事し、地域医療に貢献できることに無量の喜びを感じております。

簡単ではありますが、自己紹介と抱負を述べさせていただきます。平成7年卒で、主に名古屋第二赤十字病院で、田嶋一喜、井尾昭典両部長のもとで基本的なトレーニングを積み、その後、胸部心臓外科、上田裕一教授、碓氷章彦准教授の指導のもと、より難易度の高い手術の習得に励みました。以前より大動脈疾患に最も興味があり、大学院在学中には京都府立医大に短期留学し、岡克彦講師に師事して、大動脈瘤に対する低侵襲治療であるステントグラフト内挿術を学んで参りました。

今回一人赴任ということで、手術の際には大島英揮講師をはじめとする名古屋大学のスタッフのバックアップを受けます。手術は一人ではできませんの

で、そういう意味では大学のサテライト病院という感は否めません。しかし私はそれを負のイメージとしてとらえてはいません。心臓血管外科手術は非常に難易度が高く、患者さんにとっては生きるか死ぬかの大手術と考えられがちですが、それは心臓血管外科の黎明期の頃の話です。私が在職した施設の手術成績は、いずれも全国の有名施設のものと同色なく極めて良好でした。心臓血管外科手術においても全ての外科系の手術と同様、比較的簡単なものから難易度の高いものまで様々あります。その見極めをしっかりと行うトレーニングは十分に積んできたと自負しております。安全に施行しうるのは当院で行い、自分の手に負えないものは強固なコネクションを使って大学病院に紹介する、このようなスタイルで行っていくことが患者さんのためになり、ひいては自分のステップアップにも繋がると考えております。連携医療機関の先生方、どうか安心して患者さんをご紹介願えたらと存じます。

当面は週一回の心臓手術とともに、月二回の大血管手術を目標とします。ステントグラフト内挿術は、東海地区で積極的に行われているのは未だ大学病院にとどまるため、需要が高いことが予想されます。ステントグラフト治療は患者さんへの負担が軽い点において非常に優れた治療法ですが、全ての大動脈瘤に適応となる訳ではなく、低侵襲にこだわるあまり適応を誤るとかえって患者さんにとって不利益となります。適応については熟慮を重ねたうえで行っていきます。大動脈瘤でお悩みの患者さんは、是非一度外来にお立ち寄り下さい。

まずは目の前の患者さんから。決して背伸びすることなく、患者さん一人一人を大切に、手厚い診療を心がけます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。